

## CASE 04

### 猫パルボウイルス感染症

猫汎白血球減少症とも呼ばれます。仔猫が感染すると重症化し、時に致死的です。発熱、元気消失、食欲低下のほか、下痢や嘔吐もしばしば認められます。腸から出血した場合には血便が認められることもあります。また、白血球が著しく減少し、細菌などの感染に非常に弱くなります。感染してしまうと症状を緩和する治療しかできず、死亡率も高いため、予防が重要となります。動物病院で一般的に接種される混合ワクチンで、この感染をほぼ予防できます。



早めのワクチン接種がおすすめ

## CASE 05

☑ 咳、くしゃみ

じょうぶきどうえん

### ウイルス性上部気道炎

猫ヘルペスウイルスおよび猫カリシウイルスによる感染症で、いわゆる「猫風邪」と呼ばれている病気です。口や鼻、目の粘膜から感染し、くしゃみ、鼻汁、目やになどが認められます。猫ヘルペスウイルスでは一般的に眼の症状が強く、結膜炎などがみられます。一方、猫カリシウイルスでは口の中や舌に潰瘍ができるのが特徴です。成猫では症状を出さないか、出しても軽症ですが、仔猫では重症化することがあります。感染後の治療は症状を緩和する治療法しかないため、予防が重要になります。動物病院で一般的に接種される混合ワクチンで、これらの感染をほぼ予防できます。



室内が安心!

#### ウイルス感染症などの予防方法

感染している猫を外に出すことは他の猫にウイルスを移す機会を増やし、地域の猫全体にこのウイルス感染が蔓延する結果となりますので、猫を室外に出すのは止めましょう。いずれの感染症も猫から人に移ることはありません。※猫エイズは人のエイズとは別の病気です。

#### 飼い猫が感染してしまったら

①特に発情期に外に出たがる猫が多いことから不妊去勢をして、外に出さないようにしましょう。  
②他にも飼い猫がいる場合は感染していない猫とは別の部屋(もしくはケージで隔離)で生活させます。食器・トイレなどは専用の物を用意し、世話をする際にはこまめに手を洗いましょう。

## 呼吸器・循環器の病気



## CASE 06

☑ 咳、くしゃみ  
☑ 呼吸が荒い

### ねこぜんそく 猫喘息

人と同様に猫にも喘息があります。さまざまなアレルゲン(タバコの煙、花粉、ハウスダストマイトなど)を吸引することで、気管支の炎症や気道の閉塞が引き起こされます。症状としては咳や呼吸困難、喘鳴(喉がゼエゼエ鳴ること)が認められます。猫では飲水や興奮などが引き金となって、逆くしゃみと呼ばれる症状が認められることがあります。くしゃみと咳、逆くしゃみは時に区別するのが困難です。空気清浄機による環境改善やステロイド剤などを用いて治療しますが、慢性化すると治療が難しくなるため、早期の対応が勧められます。

## CASE 07

☑ 呼吸が荒い

### しんきんしょう 心筋症

心筋症とは心臓を構成している筋肉が変質し、正常な収縮が行えなく疾患です。肥大型心筋症、拡張型心筋症、拘束型心筋症などが存在します。このうち、猫では肥大型と拘束型が多いとされています。いずれの型でも、心臓がうまく収縮できず、心臓から全身へ血液を送り出す機能に異常をきたし、さまざまな症状が現れます。肺に水がたまったり、胸水が溜まると呼吸困難が認められます。また、血栓ができやすくなり、特に後ろ足につながる血管で血栓が閉塞すると麻痺が認められます。心筋そのものを治療することはできず、心臓の働きを補助するような薬剤を使用します。